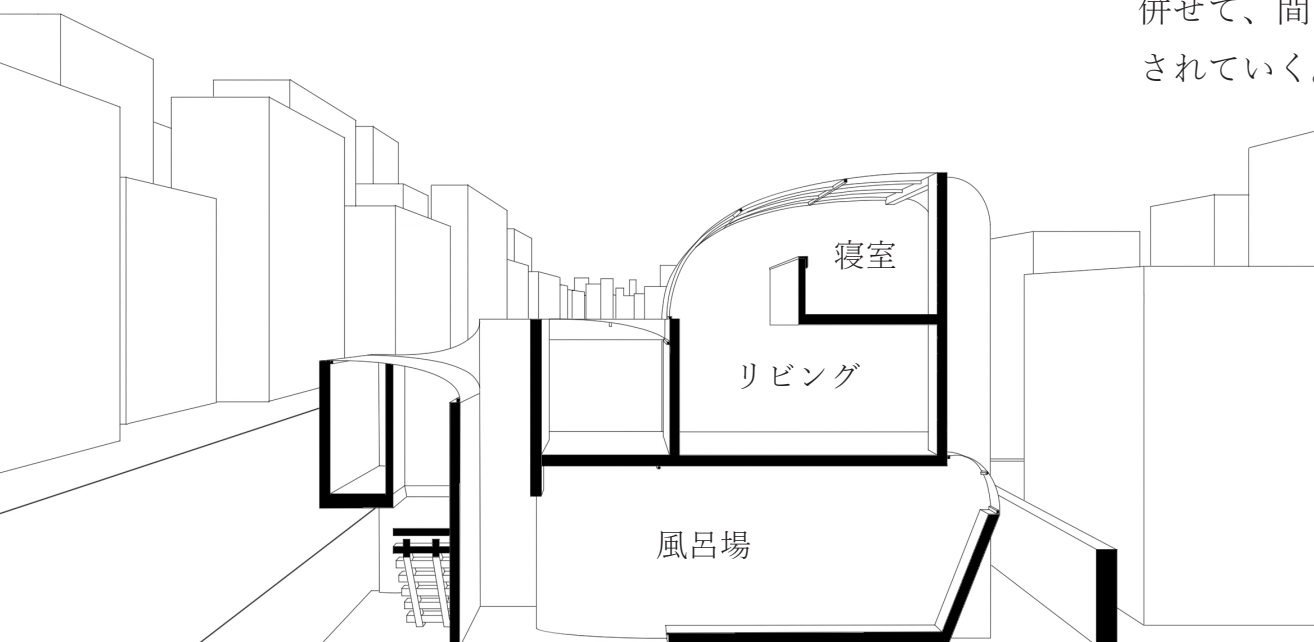
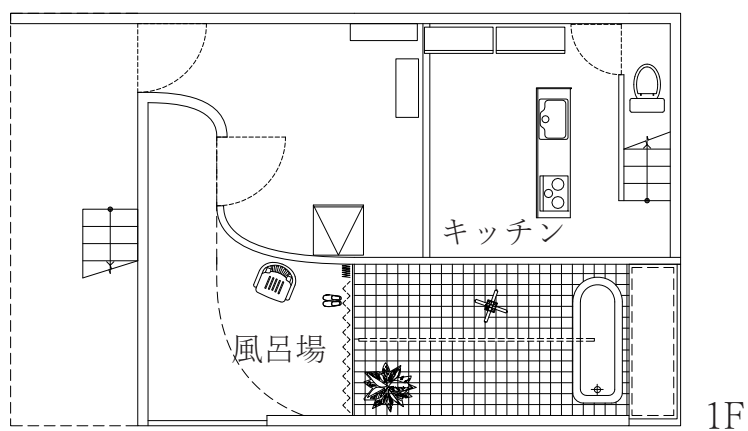
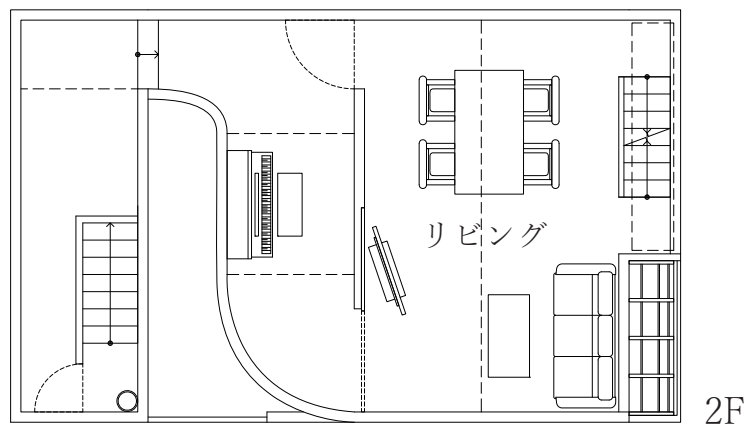


綴る間のバケーションホーム

東京の都市部に観光に来た外国人向けの一棟貸しの宿泊施設
秋葉原の距離なし住宅地を敷地とする



綴る間

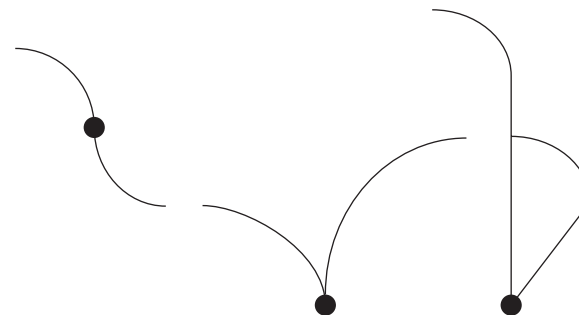
「綴る」という言葉の意味には、モノゴトを結び付ける効果が含まれている。
ばらばらのページを一辺で綴れば、一冊の本になる。
人や物、環境、出来事のことを順序立てて綴れば、一つの物語になる。
体験として生活が結び付き綴られていくような空間は、日本の伝統的な農家の四間取りにみられる。
可動間仕切りで緩く場が定義され、その時の活動に併せて、間の繋がりや重み付けが住み手によってなされていく。狭小の都市部の住宅スケールにおいて、平面的な透明性の確保は難しい。
そこで、建築の持つ境界をあいまいにし、利用者の解釈の余地を多く含む操作として、カーブを使用する。

カーブの解釈

流し

反発

リズム



リビング



風呂場

